

技術コンサルティングとコミュニケーション

松村 昇 (機械部門)

(松村技術士コンサルティング事務所)

私が三菱重工長崎造船所を辞めて、技術コンサルタントの仕事を始めたのが、1993年7月ですから、早いものでもう11年になります。この11年の間ほとんどが外国暮らしで、それもJICAの国際協力関連の仕事が多く、あまり民度の高いところには縁が無くて大体が発展途上国ばかりでした。

ケニアのナイロビでは1994年1月から2000年4月までの6年3ヶ月をジョモケニアッタ農工大学で、また2001年1月から2003年1月までの2年間をナイロビ市役所で、あわせて8年3ヶ月もJICA専門家として仕事をしましたから、今でもケニアのことがとても懐かしく思い出されます。ジョモケニアッタ農工大学では、機械工学科教官の育成教育、研究指導、学科運営、学生の授業、ワークショップでの実習指導、それから大学全体の運営管理の分析や経営指導まで行いました。またナイロビ市役所では、ナイロビ市の廃棄物収集車両の運用、維持管理の改善指導、車両修理技術指導、最終処分場の改善指導などを行いました。

その他に、2003年4月以降はカンボジア、ソロモン諸島、パラオ、ヨルダンなどで、JICA無償資金協力による発電所建設や技術調査の仕事を行ってきました。カンボジアでは、昨年9月から今年1月にかけ、アンコールワットで有名なシアムリアップ市にJICA無償資金協力で建設された、10.5MWディーゼル発電所の技術要員約30名に発電所運転維持管理教育を行いました。カンボジアは長い内戦で高度の技術教育を受けた人材が極端に不足しており、この新設ディーゼル発電所の技術要員約30名の中で、少しだけ英語が話せるのはエンジニアのただ1人だけで、500KW程度のディーゼルエンジンと発電設備の運転経験者がたったの3人、あとは急募した素人同然の若者達ばかりでした。しかし彼らとともに足掛け約3ヶ月間、ディーゼル発電設備の機械、電気、制御システム、ディーゼルエンジンの理論、ディーゼル燃焼と燃料油、潤滑、冷却水管理、補機、配管の構造を取り扱い、メンテナンス等々を根気強く指導しました。私が英文で書いた図面と説明資料を使って英語で説明し、英語のわかるエンジニアがそれをカンボジア語で受講生に通訳する。受講生はカンボジア語で質問し、それを英語に通訳してもらって私がまた英語で答える。それをカンボジア語に通訳して質問者に答えるという、全く手のかかる教育指導でしたが、そのうち私が英語で、彼らがカンボジア語で話しても、以心伝心で互いに結構上手くコミュニケーションができるようになりました。今

この新設ディーゼル発電所を事故も無く順調に運用していると聞き、あの技術教育が利いたのだろうと密かに満足しております。

三菱重工に勤務した31年間は、機械の設計屋として、舶用ディーゼルエンジン、原子力、火力プラント、環境設備などの開発設計を手がけていて、開発計画とか試験研究、詳細設計や事故調査それにアフターサービスなど、幅広くいろんな経験をしておりましたから、その経験が今の技術コンサルタントの仕事にとても役立っているようです。しかし、技術コンサルティングの実際の場面では、色々と厄介で、これまで経験したことのない状況や問題に出くわす事が実際に多く、自分の専門分野に関する問題が出てくると、正直言ってホッとなります。ですから、自らの得意分野だけでなく、自分の守備範囲というか専門分野を出来る限り広くしていくことを常々心がけておくことがとても大切だ、ということを強く感じています。

外に出てつくづく思うことは、国内、国外、人種、職業、年齢、男性女性を問わず、広い世の中には実際に多くの人たちが、いろんな分野でそれぞれ優れた技術と見識、広い知識と経験を持っておられるということです。これまで私自身が未経験で難しい状況や問題にぶつかったときは、その都度、多くの先輩方、経験者の皆さんから親切にいろいろなことを教えていただきました。お陰で、なんとか無事に乗り切ることができ、また私自身も新しい経験と知識を積み上げることができました。そしてそれが上手く行くかどうかはコミュニケーションの如何に掛かってくるように思っています。

日本人同士でも時には誤解や揉め事の元になるコミュニケーションの難しさが、外国では本当に骨身に沁みました。ケニアのジョモケニアッタ農工大学で仕事を始めたころ、私は相手が教官とか学生だったら、図面や資料、それに機械などの現物を前にすれば、たどたどしい英語に身振り手振りを交えて話をしても、こちらの言うことは大体通じるし、相手の言うことは何回も聞き返せばそのうち解ってくるから、それで何とか技術的コミュニケーションができるだろう、程度の安易な気持ちでした。確かにこのくらいで事足りる場合もありましたが、それは運良く相手がこちらの下手な英語をじっと聞いてくれる寛容な人物だったからです。

しかし農学部工学部を通じた大学全体の研究活動の審議メンバーとして、研究審議会に出席するときはそうは問屋が卸しませんでした。工学部のことはまず問題ありませんでしたが、農学部の場合は、膨大な英文

年3月からは私が教育した運転維持管理要員だけで、こっちが農業のことはズブの素人ということもあって、全く閉口しました。おかしなことを質問したり、見当違いの返答をしたりして、失笑を買い大恥をかきました。それもこれも今は懐かしい思い出です。

海外でのコンサルティングの基本は、外国語を読む、書く、聞く、話す、ことを正確にスピードに行うこと、技術以前の問題で至極当たり前と言えば当たり前のことですが、実際は本当に難しいことです。しかし絶対に避けては通れないですから、これから海外で仕事をする皆さんには、本気でコミュニケーションスキルの向上に取り組んで頂くようお勧めしたいと思います。

(以上)

平成16年度 広報委員会報告

長崎地区広報委員 平原 宏志

平成16年度広報委員会の事業計画について報告致します。8月17日(火)に九州支部において広報委員会事業計画の協議が行われました。協議事項として、

- I. 平成16年度事業計画について
- II. 九州支部広報委員会名簿について
- III. 「技術士だより」について
- IV. インターネット活用について
- V. CPD業務の広報緊密化について
- VI. その他

の6項目です。この中で、会員の皆様方に特に関係ある部分について説明致します。

1. 「技術士だより」の基本方針

I. 平成16年度の事業計画及びIII. 「技術士だより」と共通する項目がありますので合わせて報告致します。

「技術士だより」の年4回発行は前年度の通りですが、この趣旨は、『情報連絡、事業報告の他、会員投稿、特別企画等によって、連絡報告機関誌の枠を超えた活発な技術士活動が映し出されるような内容の充実を図る』ことがあります。61号(H16.9)から各地区の枠を「地域だより」「声の広場」の他に「修習技術者の声」「技術情報・知識の窓」の2項目を追加し、地域の情報に重点を置いた紙面作りになっております。尚、この項目についての説明が、「技術士だより 61号」に記載されておりますのでご覧下さい。長崎地区の原稿依頼は、「修習技術者の声」は64号(H17.6)までには入っておりませんので、本年度合格の技術士補の方に65号(H17.9)に執筆して頂くことになると思います。「技術情報・知識の窓」のうち、技術情報は最新技術についての情報で字数は1600字程度になります。また、知識の窓は身近な話題(健康、趣味等)を紹介していただくもので字数は800字程度となります。いずれも、会員の投稿により運営されるものであり、九州支部に原稿をお送り下さい。投稿がない場合は、会員の皆様に執筆依頼を行いますので、快くお引き受け頂ければ幸いです。長崎地区的「技術情報」の原稿

の論文についてその場で討議してコメントするのは、依頼は、63号(H.17.3)の予定となっております。会員の皆様の最新技術情報をどしどしお送り下さい。これ以外に、63号に「地域の活動(事務局にお願いしています)」と64号「声の広場」があります。この投稿もお願い致します。

2. インターネット活用の広報活動

九州支部は、『支部のIT推進委員会と密接な関係を保ちながら、インターネットを活用する広報活動を開催する。特に、ホームページについては、内容刷新と適正な管理と更新を図る。また、併せてE-mail活用も含めて会員に対する広報、業務開発の手段として機能するように努める。この中で、月刊技術士が届かない人たちには、ホームページの活用をお願いする。また、最終的には、「技術士だより」をホームページ上で提供する、支部のCPD実施要項に対してもホームページなどを通じてその広報、普及対策に万全を期する。』という活動方針を決めております。長崎地区も、連絡はE-mail主体にしていきたいと考えております。

会員の皆様の、E-mailの通知と活用をお願い致します(会員名簿に記載できない方は事務局のみの連絡用としますので、お知らせをお願いします)。

3. その他「技術士全国大会(福岡大会)の広報活動」

全国大会実行委員会と連携を密に取りながら、全国大会の案内を「月刊技術士」「技術士だより」「ホームページ」を通じてタイムリーに行い広報活動に努めます。

以上が広報委員会による協議内容です。詳しくは「技術士だより」「ホームページ」等をご覧下さい。ここに、「技術士だより」原稿提出要領を記しておきますが、九州支部に直接投稿された方は、長崎県技術士会事務局までお知らせ下さい。投稿後の取扱いについて確認を致します。

(1) 原稿書式

- ① パソコンワード(またはワープロ)の場合
本文43字×40行の1段組または
23字×40行の2段組
- ② 手書きの場合
原稿用紙(20字×20行)横書き

(2) 送付方式・出来るだけ、Eメールでお願いします。

- ① Eメール送付送信
支部宛 engineer@joho-fukuoka.or.jp
宛 先 支部広報委員長
件 名 「技術士だより」原稿
- ② FAX送信
支部宛 092-432-4442
宛 先 支部広報委員長
件 名 「技術士だより」原稿
- ③ 郵送
宛 先 支部広報委員長

以上

<p>事務局便り</p> <p>会員の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。</p> <p>平素は、日常業務に追われ活動が十分でなくご迷惑を掛けております。</p>	<p>来年度は、17年10月19～20日福岡で「技の連携・培う地域の新文化」をテーマに開催されます。</p> <p>現在、支部において準備が進められています。</p>
<p>今後の予定等をご連絡いたします。</p> <p>1) 佐賀県技術懇話会 11月27日(土) 13:30～17:00 於 佐賀県立宇宙科学館(佐賀県武雄市) 長崎県技術士会 柏原公二郎(応用理学部門) 技術士が講演されます。</p>	<p>会議内容の概略をご連絡致します。</p> <p>(1) CPDの開催について 九州支部においては、CPDの充実に取り組んでいます。長崎地区においても、年2回の定期的な研修会の開催に加えて、今後、これ以外の開催を行い活性化を図るように検討して行く。</p>
<p>演題は「地下水の環境変化の調査法について」多くの皆様の参加をお願いします。</p> <p>2) 九州支部の部会委員推薦について。 支部より、各県より次の部会委員の推薦要請がありましたので、下記のとおりお願いし、お忙しい中に快く引き受けいただきました。ありがとうございました。</p> <p>第2部会・・・桐原 敏(建設部門) 技術士 CPD推進・・・永濱 伸也(応用理学部門) 技術士</p>	<p>技術士会以外の、他の機関との共催などについて考えて行きたい。</p> <p>(2) 研修旅行について 九州支部では、中国の三峡ダム等の研修旅行が実施されているが、長崎県技術士会としても実地研修会の開催を検討したい。</p>
<p>3) 17年新年研修会及び新年会について 例年通り、1月末に開催を考えています。研修会のご講演をお願いできる方を募集いたします。事務局までご連絡下さい。</p>	<p>(3) 会員の増強 長崎県内の事業場へ勤務されている、技術士・技術士補で、長崎県技術士会へ未加入の技術者に対し、入会のお誘いをして行くことを検討する。</p>
<p>4) 九州支部常任幹事会開催(8月28日(土)) 今後の支部の運営等について協議がありました。</p> <p>(1) 九州支部 CPD 第2ステップ体制について 技術士を取り巻く社会の動きが大きく変化しています。技術士会への期待や果たすべき役割に対して、技術士法改正や技術士ビジョン策定等内部からも大変革が実施されつつあります。その大きな動きは集約すると①職業法への指向、②技術士20万人への指向です。</p>	<p>皆様の、お知り合いで該当される方への入会のお勧めを御願いします。会員の増強を図り、技術者としての研鑽を図って行きたい。</p> <p>今後、修習技術者が増加するものと考えられるので、該当者の入会の促進を図る必要性があると考える。</p> <p>(4) 平成17年1月開催予定の「長崎県技術士会研修会」について。</p>
<p>これらの動きを技術士及び技術士会の基盤の面から再構築するために、現在、内外から最も重要な役割を課せられているのがCPD活動です。</p>	<p>(5) 平成17年6月(佐賀県にて)開催予定の「西日本技術士業績・研究発表会」に当たっての、長崎県の役割について。</p>
<p>このような動きの中で、九州支部、各地区の、①CPD活動項目、②具体的な進め方、③推進体制、等について検討・協議が進められています。</p>	<p>(6) その他 名簿の作成、支部との連絡等について。</p>
<p>(2) IT推進について 支部では、IT推進委員会が中心となって、昨今のインターネットの発達を利用して会の本部、支部と会員、会員同士などの情報交換の効率を上げ業務に役立てようとして活動を進めています。</p>	<p>6) 長崎県技術士会年会費納入のお礼とお願い 16年度の会費について、納入いただきありがとうございます。尚、一部未納となっている会員の方がありますので納入いただきたく宜しくお願い申し上げます。</p>
<p>先ず最初のステップとして、今までのFAXによる支部からの広報Emailが可能な会員については、Emailによる通信に切り替えてゆくことで作業が進められています。今後は、Emailによる連絡が行われるように移行されてくると思いますが、当面は、不慣れのため色々とご迷惑をお掛けすると思いますが何卒よろしくご協力のほどお願い申し上げます。</p>	<p>7) 現在の会員数 97名となっています。</p> <p>8) 勤務先等や連絡先の変更が有りましたら、下記までご連絡をお願いいたします。</p> <p>会員皆様の要望、意見、各種情報等も下記までお寄せください。長崎県技術士会に関する連絡先は下記の通り</p>
<p>(3) 17年度「技術士全国大会」について 本年度は、北海道において10月開催されました。</p>	<p>西日本菱重興産株式会社土木部 大橋 義美 〒852-8136 長崎市神の島町3丁目9番9号 TEL 095-865-5200 FAX 095-865-5880 E-mail : yoshimi.ohashi@west-ryoko.co.jp</p>